

## 実証中事業(でんきで見守り)の概要

本実証事業は、東電PGが国立循環器病研究センターと共同開発した「電力使用量に基づく認知機能低下の予測サービス」を無償で提供し、当サービスの認知症予防・早期発見等に資する効果の検証およびお客様向けサービスとしての受容性の測定等を目的として実施しているものです。

実証期間 : 2023年9月～2024年10月(予定)  
実証参加者 : 本実証事業への参加に同意された、65才以上で一人暮らしの太陽生命の保険加入者  
参加人数 : 約50名

### ■「電力使用量に基づく認知機能低下の予測サービス」の仕組み

東電PGは、年齢・教育歴等の基本情報と家庭内の電力使用データを用いて認知機能低下を予測するモデルの作成に世界で初めて成功しました。

家電ごとの電力使用量を正確に計測できる「AI機器分離技術」と当モデルを組み合わせることにより、電力センサーを設置するだけの「簡単」で「身体への負担が少ない」方法で、認知機能の低下を早期発見することが可能です。

詳細は、下記リンク先よりご覧ください。

[家庭内の電力使用データを活用し、認知機能低下を予測するモデル作成に世界で初めて成功 | プレスリリース・お知らせ一覧 | 東京電力パワーグリッド株式会社 \(tepcoco.jp\)](#)

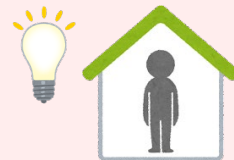
### ■実証事業の流れ

#### 実証開始時

- ・ モニターの皆様のご自宅に、専用の電力センサーを設置します。
- ・ 本実証に必要なアプリを、参加者ご本人のスマートフォンにダウンロードいただきます。

#### 実証期間中(2024年10月までを予定)

- ・ ご家庭の電力データから「認知機能低下リスク」、「熱中症リスク」、「家電の利用状況」等を検出し、結果を文書やアプリでお知らせします。
- ・ 期間中は3回程度のアンケートを実施予定です。



#### 実証期間終了時

- ・ 電力センサーを回収し、実証終了となります。
- ・ 電力データやアンケートデータを分析し、サービスの改善、太陽生命のお客様への提供検討等に活用します。